

1094. Fréchet 束ソノ他ニ関スルニ三ノ注意

小笠原 藤次郎(廣島文理大)

Fréchet 束ソノ他ニツイテ書キモラシクニ三ノ注意ヲ述ベルノが目的デアル。

§ 1. Banach 束トナル條件

Banach 空間ガ、一方ニ於テベクトル束デアルトキ Banach 束トナル様ニノルムガ導入サレルカ否カニ就イテ次ノ定理ガ成立ツ。

定理 1. ベクトル束 X ガ Banach 空間ノトキ、位相ヲ変ヘタイマツニ必要アラバ新シイノルムノ導入ニヨツテ Banach 束トナル條件ハ、ノルムニヨル収斂ト相對一樣(*) 収斂ガ同義トナレコトデアル。

(証) Birkhoff, Lattice theory, 定理 7.21⁽⁴⁾ニヨリ條件ガ必要ナルコトハスガ判ル。以下充分ナルコトノ証明。 X ノ典ヘラレタノルムヲ $\|x\|$ デ表シ $\|x\| = l. u. \{ \|x'\|; |x'| \leq |x|, x' \in X \}$ ト定メルト、次ノ (1) - (5) ガ成立ツ。

$$(1) \quad 0 \leq \|x\|, \leq +\infty, x=0 \text{ ノトキニ限リ } \|x\| = 0$$

$$(2) \quad \|\lambda x\| = |\lambda| \|x\|, \quad \lambda \text{ ハ } 0 \text{ デナイ実数}$$

(*) ノルムニヨル収斂ト相對一樣(*) 収斂ノ同義ヲ述ベタニデアアル。F-束ニツイテハ、小笠原藤次郎、紙数誌、243号、Fréchet 束ニ就テ、§1、補題5参照。

$$(3) \quad \|x+y\|, \leq \|x\| + \|y\|,$$

$$(4) \quad \|x\| \leq \|x\|,$$

$$(5) \quad \text{任意ノ正数 } \varepsilon = \text{對シ, 正数 } \delta \text{ が存在シ, } \|x\| \leq \delta \\ \text{ノトキ } \|x\| = \|x\|, \leq \varepsilon$$

コノうち (1), (2), (4) ハ自明. (3) ハ, $|z| \leq |x+y| + |x|$
任意ノ $z = \text{對シ, } x', y' \text{ } z'_+ = z_+ \wedge |x|, z'_- = z_- \wedge |x|;$
 $y' = z - x'$ ト選バト $\|z\| \leq \|x'\| + \|y'\| \leq \|x\| + \|y\|$, カラス
ガ判ル. (5) ハ, アル正数 $\varepsilon = \text{對シ, } \|x_n\| \downarrow 0, \|x_n\|_1 > \varepsilon$
トスレバ $|x_{i_n}| \leq \lambda_n$ ム, $\lambda_n \downarrow 0$ +ル正要素比及ビ正数列
 $\{\lambda_n\}$ が存在スル. $\|x'_{i_n}\| > \varepsilon, |x'_{i_n}| \leq |x_{i_n}| + |x'_{i_n}|$
が存在スルカラ $|x'_{i_n}| \leq \lambda_n$ ムトナリ $\|x'_{i_n}\| \rightarrow 0$ トナリ,
 $\|x'_{i_n}\| > \varepsilon = \text{反スル.}$

(5)ノ成立カラ $\|x\|, < +\infty$ トナリ, $\|x\|, = \text{ヨッテ } X$
ハ Banach 束トナリ 且ツ $\|x\| = \text{ヨル Banach 空間ト}$
考ヘタ X ト Banach, 意味ヲ同型ニナル.

(注意) ベクトル束ハ, 如何ナル方法ニヨッテ Banach
束ニヨッテモ, Banach, 意味ヲ同型ナラズ.

同シ論法ヲ F 型空間ニ適用スルトナリノ定理ヲ得
ル.

定理2. ベクトル束ガ F 型空間ノトキ, 位相ヲ変ヘナ
イヤウニ必要ヲラバ新シイ計量ノ導入ニヨッテ F -束ニナ
ル条件ハ計量ニヨル収斂ト相對ニ様(米)収斂ガ同義トナル
コトナラズ.

(注意) ベクトル束が F -束トシテノ計量ハ, Banach
ノ意味ノ同型トイフコト以外ニハ一意ニ定マル。

次ノ節デハ, K_0 型 "正則" ベクトル束ガ Banach
束トイルトキハ, K -空間 (Kantorovitch 空間) トナル
コトヲ使フ。

§2. Orlicz ノ空間

$M(u)$ フ スバテノ実数 $u = 0$ 対シ定義サレタ凸函数デ
次ノ 1° - 4° フ満足スルモノトス。(Banach ノ本,
227 頁)

$$1^\circ. M(-u) = M(u)$$

$$2^\circ. \lim_{u \rightarrow 0} \frac{1}{u} M(u) = 0$$

$$3^\circ. \lim_{u \rightarrow +\infty} \frac{1}{u} M(u) = +\infty$$

$$4^\circ. \overline{\lim}_{u \rightarrow +\infty} \frac{1}{M(u)} M(2u) < +\infty$$

ユノ $M(u) = 0$ 対シ, $N(u)$ フ, $v \geq 0$ ノトキ

$$N(v) = \max_{0 < u < +\infty} [uv - M(u)], \quad v < 0 \text{ ノトキ } N(v) =$$

$N(-v)$ ト定ムルト $N(u)$ ハ凸函数デ 1°, 2°, 3° ガ成立ツ

ガ一般ニハ 4° ハ成立シナイ。

$[0, 1]$ 上ノ可測函数, シテ $\int_0^1 M(x|t|) dt < +\infty$ ナル
モノ, 全体ヲ (O) デ表シ, $x \in (O)$ ノルムヲ

$$\|x\| = \text{l.u.b.} \left(\int_0^1 x(t) \omega(t) dt; \int_0^1 N(\omega(t)) \omega(t) dt \leq 1 \right)$$

ヲ定ムルトキ (0) の Banach 束ニナル。 (証明ハ例ヘバ Zygmund, Trigonometrical series, 96-97)

(0) ヲ定義スルニ, $M(u)$ が 4° ヲ更ニツヨクシテ

$M(2u) \leq CM(u)$ ヲ満足スルモノトシテヨイ。 (Orlicz, *Studia, Math.* 5 (1934), 128). 従ッテ (0) の K_6 型 正則^o ベクトル束ヲナル。 小笠原, *Fréchet* 束ニ就テ (III), 紙数誌 245?

故ニ Banach 束トシテ (0) 空間ハ K -空間ニナル。 $N(u)$ が 4° ヲ満足スルトキ, (0) 空間, 共軛空間が K -空間トナリ (0)-空間ハ Banach 空間トシテ 正則 (regular, reflexive) ナル。

(4°) 1 代リニ, $\lim_{u \rightarrow 0} \frac{1}{M(u)} M(2u) < +\infty$ ヲ満足スルトキ $\sum_1^\infty M(\varepsilon_n) < +\infty$ ナル $x = \{\varepsilon_n\}$ 1 全体ヲ (0) ヲ表シ,

$$\|x\| = \text{l.u.b.} \left(\sum \varepsilon_n \omega_n; \sum N(\omega_n) \leq 1 \right)$$

トスルトキ (0) の K -空間ニナル。 特ニ $N(u)$ が

$\lim_{u \rightarrow 0} \frac{1}{u} N(u) = 0$ ヲ満足スルトキハ (0) の Banach 空間トシテ 正則ナル。 (Banach, 本, 240 頁 34 参照)

$(-\infty, +\infty)$ 1 上ヲ論ズルニハ, $M(u)$ が 4° 1 代リニ $M(2u) \leq CM(u)$ ヲ満足スル場合ヲ考ヘル。 工ノトキ $(-\infty,$

$+\infty$) 上, 可測函数 $x(t)$ / 中テ, $\int_{-\infty}^{+\infty} M(x(t)) dt < +\infty + \nu$

$\varepsilon /$, 全体ハ $\|x\| = l.u.b. \left(\int_{-\infty}^{+\infty} x(t) \omega(t) dt ; \right.$

$\left. \int_{-\infty}^{+\infty} N(\nu(t)) dt \leq 1 \right) = \exists \parallel$ Banach 束トナリ, K -空

間 = $+\nu$. $N(u)$ カ $N(2u) \leq C_1 N(u)$ フ満足スルトキ,

コノ空間ハ Banach 束トシテ正則 = $+\nu$.

以上ハ, abstract set / 上テ測度函数ガ與ヘラ
レテイル場合 = ε , 上ノ所論 = 並行シテ, 所論ヲ拡張スル
コトガ出来ル。反復シテ論ガルコトハ煩ハシイカテ略スル。

§ 3. Kantorovitch 空間 = 對スル = 注意

共軛 Banach 束カ K -空間 = $+\nu$ 充分條件 = ツイ
テ紙数誌 240 / 報誌 1060, § 5 / 所論 / 一部ヲ放
張スル。

定理 1: Banach 束 X = 於テ, Γ ルムテ有界ナ
集合カテ弱位相テ, 基本列ガトリ出セルトキ, \overline{X} ハ K -空
間デアアル。

(証) \overline{X} ガ K -空間トナルコトヲ云フニハ, $f_n \downarrow 0$.
 $f_n \in \overline{X}$ / トキ $\|f_n\| \rightarrow 0$ フ云ヘバ $\exists \delta > 0$, $\|f_n\| > \delta > 0$,
 $n = 1, 2, \dots$ トスルニ, $f_n(x_n) > \delta$, $x_n > 0$, $\|x_n\| = 1$
 $+$ X カテノ列 $\{x_n\}$ ガアル。假定 = \exists $\{x_n\}$ ハ弱位相
= \exists 基本列ヲ作レトシテ差ハ $+\nu$. $\xi(f) = \lim f(x_n)$

ト定義スルト, $\varepsilon(f)$ ハ \bar{X} , (0)-連続線型汎函数デア
 ル。(談話 1060, ε 5 ト同論法デ)。明カ = $\varepsilon(f_n) \geq \delta$ 。
 然レ $\lim_n \varepsilon(f_n) = 0$ ナル故 = 矛盾ガ起ル。

定理 2. Banach 束 X = 於テ, \bar{X} ノ任意ノ要素
 ザガ X ノ要素列ノ弱極限トシテ表サレルトキ \bar{X} ハ K -空
 間デアル。

(証) 定理 1 ト同ジ考ヘ方デ (ε トシテ $\{x_n\}$ ノ弱收
 積点ノ一ツトスレバヨイ)。

定理 3. X 7 Banach 束トスル。 \bar{X} ノ任意ノ可
 分部分 Banach 束ガ σ -完全ナルトキ = 限リ \bar{X} ハ K -空
 間デアル。

(証) 定理 1 ノ証明法ヲ少シ修正シテ。

§4 可測函数族 = ヨルアル種ノベクトル束ノ表現
 $[0, 1]$ 上ノアル可測函数族ノベクトル束 = ヨリ表現サ
 レルベクトル束 = ツイテ考ヘル。

X 7 可分 K -空間又ハ K -空間トセヨ。 X ノ可分カラ
 X ハ単位ヲエツ。之レヲ e トスル。 X ガ K -空間ナルコト
 カラ, \bar{X} \in 単位 \bar{e} 7 エツ。 \bar{e} 7 $\bar{e}(e) = 1$ ナル如ク選ガ。
 X ノ表現ガール空間 Ω 7 考ヘ, e 7 恒等的 = 1 トスル様
 X 7 Ω ノ第一種集合上ヲ除イテ有限値ヲトル Ω 上ノ連続
 函数ノベクトル束ヲ表現スル。 Ω ノ基本開集合 (開且ツ
 閉集合, コト) ト第一種集合ヲ法トシテ一致スル集合 $E =$

對 σ , \mathcal{E} ノ基本開集合ノ特性函数ヲ表現函数トスル X ノ要素 $(e = \text{閉スル特性要素トナツテキル})$ ヲ $\mu(E)$ ヲ表ハス。 $\mu(E)$ ハ完全加法的デア ν 。 $m(E) = \overline{e}(\mu(E))$ ト置クト, $m(E)$ ハ \mathcal{E} ノ完全加法的測度函数トナリ, $m(E) = 0$ ト E ガ第一種集合トハ同義デア ν 。

今尙早ノ X ノ $e = \text{閉スル原子的特性要素}$ ガ存在シナイトス ν 。 \mathcal{E} ノ零測度集合ノ全体ヲ N トシ, 可測集合ノ全体ヲ M トスレバ, 完全 σ -代数 M/N ハ $e = \text{閉スル特性要素}$ ノ σ -代数ト同型デア ν 。 M/N ハヨク知ラレタ方法 ν 。 $[0, 1]$ 上ノ零測度集合ヲ法トシテ *Lebesgue* 可測集合ノ σ -代数ト測度ヲ保存スル束同型ニナル。(M/N ハ $m(E)$ ニヨリ導入サレタ距離ニ關シ可分空間ヲ作ルコトニ注意)。

従ツテ $e = \text{閉スル特性要素}$ ト零測度集合ヲ法トシテ $[0, 1]$ 上ノ可測集合トハ一對一對應スル。 $[0, 1]$ 上ノ \mathcal{E} 上ノ可測函数ハ同値 ν 函数ヲ法トシテ *Wecken* = ヨ ν 特性族 = ヨ ν 一 ν = 定スルカラ, \mathcal{E} 上ノ殆 ν 到 ν 所有限値ヲトル可測函数, 従ツテ第一種集合上ヲ除イテ有限値ヲトル連続函数ノ全体 $\mathcal{L}_{\mathcal{E}}$ ト $[0, 1]$ 上ノ可測函数ノ S 空間トハ ν ト ν トシテ同型デア ν 。

$x \in X$ ノ表現函数ヲ $f_x(\xi)$, $\xi = \text{對スル } S, \text{ 函数}$ ヲ $x(t)$ トスレバ $\overline{e}(x) = \int_{\mathcal{E}} f_x(\xi) d\mu = \int_0^1 x(t) dt$ トナリ,

$x(t)$ は $[0, 1]$ 上可積分函数, 空間 L , 要素トナル。即チ
 X は L の部分ベクトル束ヲ表現サレル。(X が抽象 L_p 空
 間 ($1 \leq p < +\infty$) の場合ニハ, e, \bar{e} ヲ適當ニトルト, $x(t)$,
 \bar{x} ノルムガ普通, L_p 空間, ノルムトナル)。任意, $\bar{x} \in \bar{X}$
 ノ表現函数ヲ調ベル。 X ノ \perp ノ表現ヲ利用シテニ容易
 ニ判ルカ, 次ノ表現ニシテニヨイ。 X ト \bar{X} ハ同じ表現ガ
 ール空間ヲモツ。 \bar{e} ニ恒等的ニトナル \bar{X} ノ Ω 上ノ表現
 ヲ考ヘ, $\bar{x} = f_{\bar{x}}(f)$ が對應スルトスル。之レニ對應スル
 S ノ函数ヲ $\bar{x}(t)$ トスレバ

$$\bar{x}(x) = \int_{\Omega} f_x(\xi) f_{\bar{x}}(\xi) d\mu = \int_0^1 x(t) \bar{x}(t) dt$$

トナル。

\bar{X} ハ S ノ部分ベクトル束ヲ表サレル。 X ハ $S =$ 特シ
 如何ナル函数ニアルカトイフニ。 $\rho(x) = \left\| \frac{x}{e+|x|} \right\| =$ ヨツ
 テ X ノ計量的完備化ヲ考ヘ, 之レヲ X_S トスレバ X_S ノ表
 現函数ハ L_{Ω} ノ全体カヲナリ, $[0, 1]$ 上ノ S ト Banach
 ノ意味ヲ同型ニナル。

次ニ $e =$ 閑スル原子的特性要素が存在スルトキハ, X ヲ
 列空間ト上述ノ空間ノ直和トシテ論ズレバヨイ。

要スルニ可分 K -空間, K -空間或ハソノ共軛空間ハ
 $[0, 1]$ ノ可測函数或ハ列ニヨル空間, 議論ニ帰結スルコト
 ガイヘタリケテアル。